

タイ語版の翻訳やナレーションを担当した感想を  
を発表する留学生たち＝刈谷市の愛知教育大で



## 留学生翻訳 刈谷PR動画完成

### 愛教大 名所や行事紹介

愛知教育大（刈谷市）の留学生が母国語への翻訳とナレーションを担当した同市のPR動画の完成試写会が二十一日、同大であった。動画は約四分間。刈谷の地理や名所、スポーツ、行事を紹介する内容。

試写会には留学生や教員ら約四十人が参加。愛教大教員が担当した英語版を含めて計九カ国版をそれぞれ放映後、留学生十人が感想を発表した。「日本に間に貴重な経験ができて良かった」「言葉が全然違うので難しかった。妻子に見せられてうれしかった」と振り返った。

ブラジルの教員で教育制度や授業法を学ぶため来日し、ポルトガル語版を担当したクニヤ・シヨゼ・ホドリゴ・キリストさん（三〇）は「『江戸時代』や『武将』といった言葉は簡潔に言い換える工夫をした。刈谷といえは工場の印象が強いが、歴史や文化の面も友達に伝えたい」と話した。

新型コロナウイルス感染拡大で県無形民俗文化財「万燈祭」の見学やホームステイ、学校訪問といった例年の地域交流がかなわらない留学生に思い出をつつてもらおうと、愛教大と地元ケーブルテレビ局「キャッチネットワーク」が企画。同局が収録した。クニヤさんは「コロナ禍で人と会いにくい状況だが、対面して交流する素晴らしさをあらためて感じた。絶対忘れない経験」と感謝した。

愛教大は動画を後輩の留学生に見てもらうなど活用方法を検討する。留学生には、完成したPR動画を保存した記録媒体（SDカード）が贈られた。

（神谷慶）